

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 2 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25285041

研究課題名(和文) ミャンマー「開国」と民主化への障害要因に関する総合的研究

研究課題名(英文) Critical Hurdles to Myanmar's Opening-up Process

研究代表者

C Pavin (R, Pavin)

京都大学・東南アジア研究所・准教授

研究者番号：40646098

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトの主たる目的は、ミャンマーの自由化・民主化にとって決定的な障害要因をさまざまな局面で検討することであった。同国がより自由で民主的な国なのか、新しい権威主義体制に移行するのか、を共通の問いとしてプロジェクトメンバーそれぞれが理論面、実際面に関する研究を進めた。プロジェクト期間中、現地フィールドワーク、内外のミャンマー研究者との交流、国際ワークショップの開催などを行い、変化が著しい同国の情報を収集した。研究成果は上記ワークショップのペーパーとしてまとめられ、研究代表者が編集作業を行っているところである。ミャンマーの自由化と民主化が楽観視できないという結論に至った。

研究成果の概要(英文)：The main objective is to identify some critical hurdles to Myanmar's opening up process, in their respective fields. We began with a question of whether Myanmar was democratizing or was it moving towards a new form of authoritarianism, perhaps one more consonant with other contemporary authoritarian regimes in Asia. Thus, the project had its concentration on identifying obstacles to Myanmar's transformation, which was significant both in practice and in theory. Throughout the project term, research meetings and a workshop ("Critical Hurdles to Myanmar's Opening-up Process") were held periodically and in a timely manner in order to respond swiftly to the shifts inside Myanmar. The project leader are editing the edited book manuscript based on the papers that were submitted to the international workshop. The tentative conclusion of the project is that we cannot hold optimistic view on the future of political liberalization and democratization of Myanmar.

研究分野：国際関係論

キーワード：ミャンマー 民主化 権威主義体制 体制移行

1. 研究開始当初の背景

本研究はミャンマーの自由化と民主化についてその阻害要因に焦点をあてて検討するものである。その背景となる問題意識は、2011年に民政移管を果たしたミャンマーが今後さらに自由化、民主化の道を行くのか、というものであった。

ミャンマーは1962年の軍事クーデターから長きにわたって軍事政権下にあった極めて稀な国である。そのため、同国については十分な研究が蓄積されることなく、軍事政権という悪いイメージが形成されるばかりであった。それゆえに、2011年の民政移管が同国の文脈ではどういった出来事で、それが同国の政治・経済・外交・社会にどういった影響を与えるのかがあまり検討されないまま、民主化への楽観的な観測が広がっていた。

ミャンマーの民主化についてはアウンサンスーチーという世界的な民主主義や人権のアイコンが存在し、また、当時の米国の外交政策がアジア重視を打ち出していたこと、さらにアジア最後のフロンティアと呼ばれる同国の経済的潜在能力が、こうした楽観論の拡大に影響していたものと思われる。

しかしながら、約50年間の軍事政権の歴史が与える自由化、民主化への足かせは重い。ましてや、市民の民主化圧力を受けての民政移管ではなく、軍事政権が主導して進めた民政移管である。したがって、民政移管後のミャンマー政治を見定める冷静な分析が必要とされていた。

2. 研究の目的

本研究はミャンマーの自由化と民主化の動向について、一般に流布している根拠の乏しい楽観論を排し、政治学、経済学、文化人類学、国際関係論を含む学際的研究組織の構築を通じて、冷静で客観的かつ総合的な分析を行い、今後ミャンマーが民主化や改革をさらに進めるにあたって障害となり得る、内的な諸要因を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究の方法的特質はその多様な視角にある。第1に国際関係論的視角である。ミャンマーは長く欧米から制裁を受けて国際的な孤立状態にあった。そうしたなかでASEANは「建設的関与」の名の下で関係を維持し、また、中国は天然資源の獲得や地政学的な利益から軍事政権との緊密な関係を構築していった。しかしながら、国内の政治経済的停滞は誰の目にも明らかであったため、軍事政権が民政移管に踏み切った側面がある。このミャンマーの民主化・自由化の国際的文脈を検討する。

第2に農業経済学的視角である。ミャンマーは人口の多くは農村に暮らす農民である。民主化や自由化とはすなわちこうした多くの人々の権利と自由が拡大するということであり、農村社会の変容を理解せずにミャン

マー政治の行方を知ることはできない。

第3は経済部門・金融部門改革の分析である。軍事政権時代のミャンマーは制度基盤の弱い脆弱な経済体制であった。民政移管によって海外からの投資が流入するなかで、そうした投資の有効な活用、国内企業の育成、金融部門の整備など、さまざまな改革が必要とされている。こうした改革が進まない場合、経済は危機に瀕し、政治へのインパクトも大きい。

第4の視角は、軍隊の政治への影響である。約50年間の軍事政権が終わったとはいえ、今も国軍は政治的影響力を保持している。ただし、国軍も新しい国内外の政治環境に適応する過程のただ中にある。この変化を考察することは、国軍の今後の動向や自由化と民主化を考えるうえで不可欠である。

以上の4つの視角から現地でのフィールドワークを通じてデータを収集して分析した。

4. 研究成果

本研究プロジェクトの成果は、平成27年度に京都大学で開催した国際ワークショップ“Critical Hurdles to Myanmar's Opening Up Process”での各報告に結実し、英文の学術書として現在出版に向けて研究代表者が編集作業と出版社との交渉を行っている。

明らかになったことは以下の3点である。第1に、国際関係においてミャンマーの自由化・民主化に最も影響を与えるのは当然のことながら米国と中国であるが、それに加えてASEAN諸国との連携が大国政治に左右されない自律的な政治経済発展の鍵になることである。現在のミャンマー外交の貴重は米中ASEAN諸国との間でバランスをとりながら国益を追求する方向性を示しており、同国の自由化と民主化にとって望ましい傾向である。

第2に、農村地域の土地問題が政治経済発展のボトルネックになりえることが明らかになった。例えば、少数民族州であるカレン州やカチン州では2011年民政移管以前にゴム農園の開発やダム開発の過程で多くの耕作地が政府によって収用されている。地域住民に対する説明や保証も不十分な収用が多く、自由化に伴って農民たちが直接不満に声をあげるようになった。2016年から政権を担う国民民主連盟(NLD)の主要な政策の1つにこの土地問題はなっている。収容された多くの多くはすでに政府から民間企業へと払い下げられており、権利関係が複雑になっているため、問題解決は相当難しい。公約にある以上、問題解決が先延ばしされるほど現政権に対する批判につながる。強引な解決はビジネス界からの反発を招くことになり、政権は板挟みになる可能性が極めて高い。

第3に、金融・経済改革面での改革について、現政権を率いるアウンサンスーチーの関心が低く、期待されたほど改革が進んでいないことが明らかになった。特に法制度面での

不備が実務的に負の効果を生み出しており、これには長年「法の統治」を軽視してきた軍事政権の影響で、同国の行政機構が十分な法案作成能力を有していないことが主たる理由のひとつである。

第4に、国軍が現代の国内外の政治環境に合わせて、これまでのパターンリスティックな政治関与から後退し、安全保障を根拠として、より「合理的」な政治関与へとその組織的役割を変化させつつあることが明らかになった。具体的には、軍事政権時代に国軍がその政治介入の正統性としてよく言及していた「国民政治」(「政党政治」の対義語として国民全体の利益を考慮した政治という意味)が後景に退き、国内武装勢力の存在というより安全保障に特化した正統性にその政治関与の根拠を求めるようになっていく。

以上から、今後のミャンマーの自由化・民主化を楽観視することは難しく、現在の限定的な民主的体制が今後もしばらくは継続するであろうという暫定的な結論を導いた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

HAYAMI, Yoko and KATAOKA, Tatsuki
“Rethinking "Religion" from the Margins. In Special Issue on Buddhism, Politics and Modernity in Southeast Asia.” (edited by Justin McDaniel).

Kyoto Review of Southeast Asia, 査読無、19巻、2017、online

HAYAMI, Yoko “Book Review: Egreteau, Renaud and F. Robinne. Metamorphosis: Studies in Social and Political Change in Myanmar” American Ethnologist, 査読無、44-1巻、2017、181-183

速水洋子「書評：佐藤齊華著『彼女達との会話 ネパール・ヨルモ社会におけるライフ/ストーリーの人類学』」文化人類学、査読無、81巻8号、2016、134-137

Pavin Chachavalpongpun, “Neo-Royalism and the Future of Thai Monarchy: From Bhumibol to Vajiralongkorn” Asian Survey 査読有、55(6)巻、2015、1193-1216

中西嘉宏「戦略的依存からバランス志向へ - ミャンマー外交と対中国関係の現在」国際問題、査読無、643巻、2015、38-47

亜蕾・藤田幸一「ミャンマー・コーカン自治区における麻薬代替開発と農村の社会経済変容 サトウキビ契約栽培導入のインパクトを中心に」アジア経済、査読有、57(1)巻、2016、2-33

速水洋子「仏塔建立と聖者のカリスマ - タイ・ミャンマー国境域における宗教運動」東南アジア研究、査読有、53(1)巻、2015、68-99

HAYAMI, Yoko “Book Review: Hjørleifur Jonsson. Slow Anthropology: Negotiating

Difference with the Lu Mien” ’ The Asia Pacific Journal of Anthropology’ 査読無、17巻、2016

C Pavin, “Myanmar’s ASEAN Chairmanship 2014: Legitimacy and Interests”, Discussion Paper, Research Institute on Contemporary Southeast Asia’ 査読無、2015
中西嘉宏「パーリア国家の自己改革 ミャンマーの外交「正常化」と米国、中国との関係」国際政治、査読有、177巻、2014、84-97
中西嘉宏「軍と政治的自由化 - ミャンマーにおける軍事政権の『終焉』をめぐって - 」比較政治学会年報、査読有、2014、183-205

Pavin Chachavalpongpun “Western Pragmatism Trumps Human Security Concerns in Myanmar” Global Asia、査読有、Vol.8, No.4、2013、74 - 80
MIENO, Fumiharu “Toward Myanmar's New Stage of Development: Transition from Military Rule to the Market” Asian Economic Policy Review、査読有、Vol.8, No.1、2013、94-117

MIENO, Fumiharu “The Challenge for a Better Corporate and Financial System” a background paper for first mini-workshop of JICA Myanmar Economic Development Program, Economy and Finance WG at Yangon、査読無、1巻、2013、1-19

Nobapaon Rabibhadana and HAYAMI, Yoko “Seeking Haven and Seeking Jobs: Migrant Workes' Networks in Two Thai Locales” Southeast Asian Studies、査読有、Vol2. No.2、2013、243-283

中西嘉宏「軍と政治的自由化 ミャンマーにおける軍事政権「終焉」をめぐって」比較政治学会年報、査読有、16巻、2014、183-205

[学会発表](計17件)

Hnin Yu Lwin, FUJITA, Koichi and OKAMOTO, Ikuko “Patron-Client Relations in the Central Dry Zone, Myanmar: The Case of Landless Palm Tenants and Jaggery Brokers” 2017 Myanmar Update, 2017年02月18日, Australia National University
Fumiharu Mieno and Wanxue Lu, “The Effects of Foreign Bank Entry on Thai Domestic Banking Sector from 1999 to 2014: with Reference to the Pattern of Foreign Entry” EAEA2016 ‘The 15th International Convention of the East Asian Economic Association Sustainable and Inclusive Development in Asia and the Global Economy’(国際学会)2016年11月05日, Bandung, Indonesia

HAYAMI, Yoko “Traveling Karen Preachers and the Culture of Evangelism: The Founding of Modern Missions in Nineteenth-Century Burma”, Chiangmai University ASEAN Center, 2016年10月26日, Chiangmai University ASEAN Center

Pavin Chachavalpongpan “ASEAN as Cornerstone of Myanmar’s Foreign Policy”, International Workshop on Critical Hurdles to Myanmar’s Opening Up Process, 2016年02月05日, 京都大学東南アジア研究所

NAKANISHI, Yoshihiro “Tatmadaw's New Role and Myanmar's Opening Up Process”, International Workshop on Critical Hurdles to Myanmar’s Opening Up Process, 2016年02月05日, 京都大学東南アジア研究所

MIENO, Fumiharu “Economic Reforms in Myanmar”, Conference, Myanmar’s ‘Borderlands’: Reforms, Conflict, Geopolitics, 2015年04月22日, London School of Economics and Political Science (LSE)

MIENO, Fumiharu, “Growth Structure, Corporate and Financial System in Myanmar: Historical Context since 1990s”, International Workshop on Critical Hurdles to Myanmar’s Opening Up Process, 2016年02月05日, 京都大学東南アジア研究所

HAYAMI, Yoko “Neither insider nor outsider or both: multi-directionality in Southeast Asian studies” 2015 Conference of SEASIA Consortium, 2015年12月12日, 京都国際会館

HAYAMI, Yoko “Traveling Karen Preachers and the Culture of Evangelism: The Founding of Modern Missions in Nineteenth Century Burma” Indigenous Christianity in Asia and Pacific, 2015年11月11日, 台湾中央研究院民族学研究所

中西嘉宏 「テインsein政権下の政治過程と2015年総選挙の若干の見通し」ビルマ研究会(全国大会) 2015年04月18日、広島大学東千田キャンパス(広島市中区)

HAYAMI, Yoko “Southeast Asian Studies: Past, Present and Future” Southeast Asian Studies in ASEAN and Global Context, celebrating the 10th Anniversary of Southeast Asian Studies Program, 2014年06月02日, Chulalongkorn University

速水洋子 「跨境域における仏塔建立と聖者信仰: カレンの宗教運動」東南アジア学会全国大会、2014年06月08日、南山大学

Pavin Chachavalpongpan “Human Security in Myanmar: Caught between “Security” Discourse and Western Advocacy” Asian Solutions to Asian Problems? Bringing Together Development and Human Security in Asia, 2013年05月24日、Ewha Womans University

HAYAMI, Yoko “Thai-Myanmar Borderland as Socio-Religious Space among Karen” ISEAS-CSEAS joint workshop on Myanmar from

the Margins, 2013年11月14日~2013年11月15日、ISEAS, Singapore

HAYAMI, Yoko “Evangelical Zeal among Early Karen Baptists” in the panel “Indigenous Christianity among Ethnic Minorities in Southeast Asia” 7th EUROSEAS, Lisbon, 2013年07月04日、Lisbon

HAYAMI, Yoko “Seeking power/protection in the uplands: Karen Buddhist practices in Myanmar and Thailand” in the Panel “Minorities and the Making of Local Buddhisms in Mainland Southeast Asia” ICAS8, 2013年06月25日、Macau

中西嘉宏 「ミャンマー: 予期せぬ改革はいかに始まり、どこへ向かうのか」東南アジア学会第90回研究大会、2013年12月07日~2013年12月08日、東京外国語大学

〔図書〕(計15件)

Pavin Chachavalpongpan, Bangkok: Aan Publisher, Karn Tood [Diplomacy] (in Thai), 2016, 全336頁

藤田幸一、日本水土総合研究所「東南アジアの水田農業とバリューチェーンの構築」『講演集「水土の知」を語る 東南アジアの水田農業とバリューチェーンの構築』2016、10-52

三重野文晴、一般財団法人アジア太平洋研究所「ミャンマー新政権と経済政策の課題」『アジア太平洋と関西 関西経済白書 2015』2016、50-55

三重野文晴、深川由起子共編著、ミネルヴァ書房「現代東アジア経済論」2017、全250頁

中西嘉宏、晃洋書房「ミャンマーにおける政治と司法 憲法裁の停滞と民主化の行方 - 」玉田芳史編『政治の民主化と司法化』2017、122-140

中西嘉宏、慶應義塾大学出版会「政治と軍」山本信人編『東南アジア地域研究入門3 政治』2017、137-152

長田紀之・中西嘉宏・工藤年博、アジア経済研究所『ミャンマー2015年総選挙 - アウンサンスーチー新政権はいかに誕生したのか - 』2016、全143頁

中西嘉宏、古今書院「国軍と政治 - 軍事政権の時代は終わったのか」阿曾村邦昭、奥平龍二(編)『ミャンマー 国家と民族』2016、392-406

中西嘉宏、日本貿易振興機構・アジア経済研究所「民政移管後のミャンマーにおける新しい政治 - 大統領・議会・国軍 - 」工藤年博編『ポスト軍政のミャンマー - 改革の実像 - 』2015、84-97

MIENO, Fumiharu and KUDO, Koji, Springer “Growth Structure and Macroeconomy under 20 years Junta regime”, Konosuke Odaka ed., Myanmar in the 21st Century: An Economy in Transition, 2015, 51-78

三重野文晴、文眞堂 ミャンマー経済：指導する経済のこれまでとこれから」 トラン・ヴァン・トゥ『ASEAN 経済新時代と日本』2016、219-271

Sunait Chutintaranond, Ukrist Pathmanand and Vinissa Ujgin, Institute of Asian Studies, Chulalongkorn University, "Catching up Southeast Asian New Body: States, Markets and Public Spheres" 2014, 全 543 頁

Pavin Chachavalpongpun, Institute of Southeast Asian Studies " ' Good Coup ' Gone Bad: Thailand ' s Political Developments since Thaksin ' s Downfall " 2014、全 290 頁

落合雪野・白川千尋、臨川書店「ものとからしの植物誌」2014、全 344 頁

MIENO, Fumiharu and KUBO, Koji, Cambridge University Press, London " Growth Structure and Macroeconomy under 20 years Junta regime ", Konosuke Odaka ed., Myanmar in the 21st Century: An Economy in Transition、2014

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

C パウイン (C Pavin)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授

研究者番号：40646098

(2) 研究分担者

三重野文晴 (Fumiharu Mieno)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：40272786

速水洋子 (Yoko Hayami)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：60283660

藤田幸一 (Koichi Fujita)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：80272441

中西嘉宏 (Yoshihiro Nakanishi)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授

研究者番号：80452366

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()